れんげだよりNo.36　令和3年3月31日
発行／社会福祉法人 蓮花苑
〒207-0033　東京都東大和市芋窪3-1615
TEL:042-565-6811

社会福祉法人 蓮花苑

れんげだより

法人理念

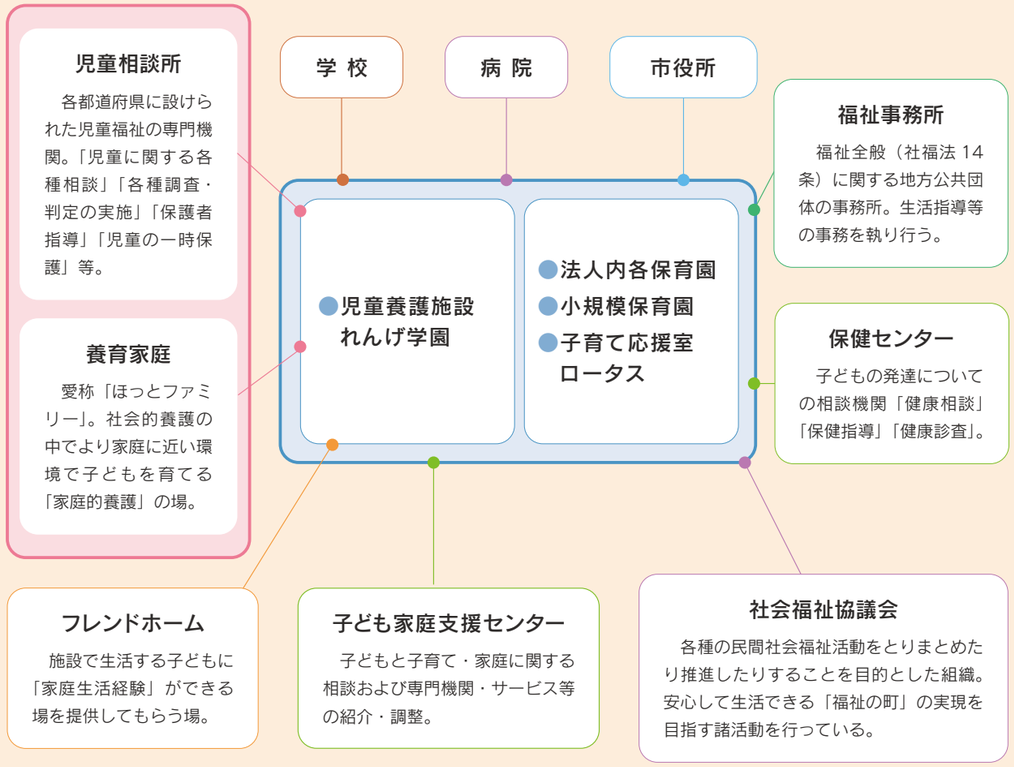
報恩感謝

写真：れんげ学園新園舎
（令和２年 11 月完成）

目 次

他機関との連携 …… 01
いかなる状況下にあっても …… 02
児童養護施設 れんげ学園 改築への歩み …… 03
コロナ禍の保育 …… 07
私の思い出の一冊 …… 14
令和元年度会計報告 …… 16
後援会会員及び寄付者御芳名 …… 17

他機関との連携



いかなる状況下にあっても

社会福祉法人 蓮花苑　理事長　佐々木晶堂

令和３年度を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

まずはじめに、現在の新型コロナウイルス（COVID-19）の世界規模でのパンデミックの状況に関して、言及しておかなければならないでしょう。昨年の『れんげだより』においてご挨拶した時点では、その後の感染拡大がどのように展開していくのか確たる見極めができなかったために、ここまで人類が積み重ねてきた経験とそれに対処してきた智恵によって迅速かつ適切に解決してくれることを期待して、比較的楽観的な見通しを述べさせていただきました。しかしながら、その後の状況は想像以上に深刻なものとなっています。今回のパンデミックに関する我が国も含めた世界各国の対応やアメリカ合衆国における各種差別の拡大・深化や大統領選挙の様子を見ていると、人類の文明・文化は期待していた程にはまだまだ成熟してはいなかったのかと少なからぬ失望を禁じえないのが正直なところであります。それでも、医療・科学技術を駆使してワクチンを含めたより確実な予防法や特効薬・治療法を確立すると同時に、私達人類の一人一人が賢く行動していくことができれば、必ずや短かい時間で現在の状況を克服していけるものと、人類の智恵に期待しております。

さて、こうしたコロナ禍の困難な状況下で事業を実施してきた令和２年度ではありますが、幸いにして当法人の児童養護施設や保育所各園においては集団感染が発生することもなく、一時的な休園のような処置を取る必要もなしに活動をしてこられました。勿論、日々の保育の中では換気や手指の消毒をはじめとする予防措置には従前以上に配慮してまいりましたし、運動会やお遊戯会・作品展といった大きな行事はこれまでとは異なった形式や方法での実施を試してみたりといった工夫もしてきましたが、これらに関しては保護者の皆様のご理解とご協力が不可欠でありましたので、この場を借りて更めてお礼申し上げます。また、何よりこうした取り組み等を可能ならしめたのは、当法人の職員一人一人が自らも困難な状況にありながらその方向性に従って保育の質の維持のために尽力してくれたお陰であり、身内に対して如何とは思いますが、更めて感謝したいと思います。こうした観点から今回の『れんげだより』ではコロナ禍における保育を一つのテーマとして取り上げていますので、一部ではありますが職員達の努力のほどを認識していただけると幸いです。

昨年度の『れんげだより』のご挨拶におきましても予告させていただいておりましたれんげ学園の改築事業の件でありますが、予定通り完了することが出来ました。本改築事業に関しては、その構想に着手してから 10 年以上の時間がかかりましたが本当に紆余曲折を経たというのが実感で、一つには敷地北側の都の空堀川河川改修工事事業の構想とスケジュールの度重なる変更に正直に申し上げて振り回わされたといわざるを得ないこと、もう一つにはこの 10 数年間の児童養護施設等の社会的養護分野での制度・政策面における環境変化が過去に類を見ない程急激であったことから、それらに柔軟に対応できるようにするために修正・調整を繰り返さなければなりませんでした。ようやく一息ついたというところではありますが、この新しいれんげ学園のハードウェアを有効的に活用して、当法人が北多摩西部地域での子育て支援の拠点の一翼を担えるように機能させていくことが何より大事となってまいりますので、今後とも行政当局と地域住民の方達のご理解とご協力を得ながら進めてまいりたいと思います。

本来であるならば、このれんげ学園の新園舎を行政・事業関係者や地域の皆様方にお披露目したいところではありますが、コロナ禍の状況でそれも当分の間、遠慮申し上げなければなりません。それでも、本来あるべき日常を取り戻せる時がくるまで、れんげ学園及び保育所各園共に手を携えてどのような特異な状況であろうとも、成すべきことを出来る限り努めていく所存でありますので、全ての関係者の皆様の更なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

児童養護施設

れんげ学園 改築への歩み

ここでは、れんげ学園が新しく生まれ変わるまでの経緯（計画始動～完成まで）を振り返ります。

1 ▸ 2013年度

施設老朽化に伴う『れんげ学園施設整備事業』について具体的検討開始

園内で「改築プロジェクトチーム」が発足され、「モデル的な施設の見学」「イメージの確立」を図る作業を開始しました。……ところが、「空堀川河川改修工事の実施」に伴い、「従来の学園北側への道路の位置に橋はかけない」「新河川沿いに道路を新しく設置する」という決定の通達がきたことで、設計から大きく変更する必要性が生じてしまいました。

2 ▸ 2014-2016年度

ひたすら待ち続ける忍耐の期間

前年度に通達のあった内容が一転、「道路は新設しない」「もとあった道路の位置に橋を新設する」という通達が突然きたことで、再度設計段階からやり直しということに。河川改修工事についてのスケジュールや変更事項等について一切わからないこと、時期的な問題（申請期限）もあり、東京都に内諾を得ていた「施設整備事業」についても、再度取り下げせざるを得ない状況に。

しかしっ!!　年度末になって、「新設される橋の各種手続きが進行している」ということがわかり、各関係機関に確認をとったうえで、「施設整備事業申請及び改築工事実施」にむけて再再度動き出すことが確定しました。

3 ▸ 2017年度

各種手続きの開始…申請書類に埋もれる日々

東京都に「児童福祉施設整備事業」の実施を申請、各種手続きを開始しました。担当部署との連日のやりとりが開始されます。

4 ▸ 2018年度

いよいよ…!

各種審査会を無事に通過し、事業の開始が承認されました。10 月に工事についての入札が実施され、11 月から学園内建物の解体作業が開始されました。

5 ▸ 2019年度

児童棟完成！ 新居に引っ越し！

年度末の３月に児童棟が完成し、新しい生活の場への引っ越しが行われました。コロナ禍であったにも関わらず、このタイミングでの引っ越しは、逆に子どもたちにとって心地よい空間を提供できるよい機会となったのではないかと思っています。あわせて、これまでお世話になっていた本園建物の解体作業も本格的に始まりました。

6 ▸ 2020年度

施設整備事業の終了

５月、本園建物の解体作業が終了。残された「管理棟及び外構」の工事が始まりました。そして 11 月、ついに管理棟が完成し、れんげ学園に引き渡しがなされ、「施設整備事業」が完了となりました。
待ちに待った（本当に永かった…）新園舎の全完成です！

心理職員から見た

コロナ禍のれんげ学園

高木 理恵

2020 年を振り返ると、世の中が新型コロナウイルスという目に見えないものからの脅威や不安とどうつきあうかという意味で、心理的な負荷 (ストレス) が大きい日々でした。健康意識が大人ほど育っていない子どもたちではありますが、感染予防を意識した生活を送っていたと思います。日常生活の健康を保つため、免疫力を下げないため、職員が一丸となって行ってきた支援のひとつに細やかな心理的配慮がありました。

れんげ学園では園舎の建て替え工事の関係で、年度初めに生活環境が大きく変わりました。その時期に学校や幼稚園が長期間お休みとなり、子どもたちは『学校や幼稚園などのおうちの外の社会でがんばる』ことに意識を向けることなく、新しい園舎での生活に適応することに意識を集中できました。その一方で、職員は慣れない環境の中での業務と、子どもの対応に翻弄されました。そのような中でも、職員は子どもたちと話し合い、お互い協力して生活基盤を整える努力をしていました。

職員が意識していた心理的配慮の多くは、できるだけ子どもたちを不安にさせないよう、生活の中で楽しみを感じられるような雰囲気作りに費やされました。機嫌のよい状態を保てることは、不安にさいなまれる状態でいるより免疫機能を向上させます。心理的配慮がうまく作用すると、本来子どもが持っている生きるエネルギーの高さも発揮され、その反応の素直さや明るさに職員が支えられた面も大きかったと思います。

心理室でも通常通り子どもの面接を継続し、変わらないものを大切に、それと同時に職員同士のコミュニケーションを絶やさないことを意識してきました。ストレスが大きい時には、つながりが分断されて孤独になるのが最もよくないからです。

こまめな除菌や手の消毒、身体の健康を保つことも大切ですが、こんな時だからこそ、心の健康に注目することも必要なのではないでしょうか。

職員 インタビュー

コロナ禍での生活を振り返って

2020年の最も大きな出来事は新型コロナウイルスの世界規模での感染拡大ですが、れんげ学園本園では、建て替えが終了した「児童棟へ引っ越し」というビッグイベントがありました。3月末に予定していた引っ越しの時期には、「緊急事態宣言」が発令されて「学校の一斉休校」という、誰も予想していなかった事態となりました。休校中、子どもたちと職員はどのように過ごしていたのか。本園けやき棟の職員から話を聞きました。

日々の生活の中で心がけたこと

熊田 私のホームには喘息がある子もいるのでとても不安でしたが、子どもたちが過剰に不安にならないよう、意識して声かけを行いました。

芳賀 子どもたちが学校に行けない分、一緒に遊んだり、おしゃべりの時間を作ったり、ゆとりを持って生活できるように意識しました。

豊田 外出ができないことで、子どもたちもフラストレーションがたまってきていたので、普段よりやわらかい感じでの対応を心がけました。

休校になったことや、外出ができない中での子どもへのメンタルサポート

熊田 子どもたちには今できることとできないことを理解してもらえるよう、丁寧に説明しました。部屋で過ごす時間が長くなったので、引っ越ししたばかりの新しい建物での新生活に慣れる時間が取れたのは、とてもよかったと思います。

芳賀 幼児さんは幼稚園に行けないことで、進級したことが実感できていないようでした。「先生やお友達に会いたい」という気持ちに寄り添い、プラスのイメージを持てるように、小さな子にもわかりやすく話すことを心がけました。

豊田 友達と会えないストレスやイライラがだんだんたまってきましたが、特別な話をするのではなく、日常の会話の中で子どもたちの気持ちに寄り添うようにしました。休校中の家庭学習に取り組む時も、リビングにジュースとかお菓子を置いて、今の状況を楽しみながら勉強できるように工夫しました。

外出ができない中、室内のみでの生活で工夫したことは？

熊田 子ども 1 人ひとりがどんなことが好きで、どんなことをしたら気が紛れるのかを考えました。ダンスが好きな子には室内で踊れるように DVD プレイヤーを用意し、ゲームが好きな子には学園で共有しているゲームを貸し出しました。ボードゲームやトランプは、小学生から高校生まで一緒に楽しめました。そしてこの機会に！ と、かき氷機を購入したのは大正解でした。業務用スーパーで練乳を購入したのですが、全員ハマってしまいました（笑）。

芳賀 外遊びができなかったので、幼児さんのプールを使って室内でボールプールをやってみたり、ミシンで雑巾作りをしたりと、日々の生活の中で「ちょっとした特別感」を演出しました。あとは、広くなったキッチンでおやつ作りを楽しみました。ゼリーやホットケーキなど、簡単にできるメニューを選んで、子どもたちと一緒に作りました。中学生とはいっぱいおしゃべりして、共通の趣味の話題で盛り上がりました！

豊田 室内で楽しく遊ぶ工夫をしました。テレビはみんなすぐに飽きてしまったので（笑）、トランプやオセロ、将棋などがセットになっているパックを買って、みんなで楽しく遊びました。「UNO」は特に盛り上がり、「寝る前の一戦（大人も一緒！）」が定例化しました。これまで学園では子ども用のパソコンはなかったのですが、パソコンやインターネットが使えるようになり、受験生はパソコンを使って調べ物ができるようになりました。何気ない時間をみんなで共有できたことは、とてもよかったと思います。

コロナ禍の保育

コロナ禍の中、保育園は、働く保護者のためにお子様を預かる
重要な役割を担ってきました。
大人が穏やかに子どもに寄り添いながら話すことで
心の成長となり自己肯定感を育む保育へとつながっていきます。
想定外の社会の変化の中で心を寄せあった職員のメッセージです。

れんげ保育園

コロナ禍での行事 ・ 市川あゆみ

いつもは保護者の方も一緒に行っていた夏まつりを子どもたちのみ、保育の中で行うことになりました。私は、夏まつりの係でした。夏まつり当日まで、担当者間で何度も集まり「密にならないように」「夏まつりの雰囲気を味わえるように」と、コロナ禍の中でも子どもたちが楽しめる行事にしようと話し合ってきました。去年までの行事では考えられなかった、人が多く集まることを避けること、大きな声をなるべく出さないこと、室内の換気の悪い所では行わないことを念頭に、担当者間での話し合いを進めていきました。

そして考えたのは、時間差を設けての少人数での出店回り。子どもたちは園に飾ってある装飾を発見したり、綿菓子やヨーヨーといった出店を見たりして、友達と一緒に回れることに大喜び。コロナ禍のため、いつもより小規模で行なった夏まつりでしたが、こんな状況でも子どもたちの楽しむ姿や笑顔はいつもと変わりなく見られました。親子で楽しむ夏まつりもよいのですが、子どもたち同士で遊びに夢中になり楽しめる夏まつりも、違う楽しみ方ができてよいと思いました。計画するのはとても大変でしたが、充実した行事になったと思います。

運動会・お遊戯会・作品展と大きな行事がありますが、新型コロナウイルス感染症の状況は未だはっきりと先は見えません。当面の間は例年とは違った取り組み方で行っていくことになると思いますが、子どもたちは、行事をとても楽しみにしています。その思いを大切にしながらコロナ禍での行事の進め方をしっかりと考え、今までと違った行事の進め方で変化を楽しみつつ、その中で新たな取り組み方法を生み出していけたらと思います。

そのためには、保護者の方の協力が必要になってきます。例年だと父母、祖父母、兄弟も見に来られた行事も、感染拡大防止のため２名と人数制限せざるを得ません。見に来たいという思いはとてもよくわかりますが、コロナ禍での行事開催ということを理解していただけるようにきちんと伝えていくことの大切さも知りました。

保育者だけでなく、子どもたちにも新型コロナウイルスが流行っているから「こうしよう、ああしよう」と考えることに繋がり、今ではコロナ対策を考えた上で、子どもたちと一緒に楽しみながら毎日を過ごしています。

コロナ禍での葛藤・感じ得たもの ・ 舟堀　朋

４月に育休明けで仕事復帰した私。新型コロナウイルス感染症が流行し、３月は学校も休校になり、３人の子どもたちとずっと一緒に過ごしていました。４月も流行は収まることはなく、不安の中での仕事復帰でした。

テレビでは、連日暗いニュースばかりで滅入ってしまう日々でしたが、久しぶりに会う保育園の子どもたちはみんな笑顔で元気いっぱい。私もこの子たちと明るく楽しく過ごそうと思っていた矢先、保育園も自粛生活が始まり、保育園に通う子は数人になりました。

私が担当する１歳児クラスはひとりか２人の登園。世の中がこんなにも大変な時でも自粛できずに働く保護者の方がいること、それに伴い保育園に登園せざるを得ない子どもたちがいること、子を持つ親として辛い現実でした。私も本音は「休みたい。我が子を守りたい。我が子も保育園に行かせたくない。留守番させたくない」と働くことに葛藤がありました。でも、保育士として働く私は、園に登園する子がいる以上、園へ出勤します。職場へ来たら気持ちを切り替え、登園している子に精一杯関わろうと思いました。

「濃厚に接すること」が必要な乳児に対して、基本的な感染防止対策である自身の徹底した手指の消毒と周囲の消毒を根気強く励行することは当たり前のことです。そのことを踏まえながら過ごすことはもちろんですが、その他に登園した子に何ができるかを考えました。普段なら保育者の膝は争奪戦ですが、この時はなかなかできない一対一での膝に座っての絵本読みをたっぷり行ったり、玩具をめいっぱい使って遊んだり、合同保育で年上の子と多く関わり、トイレトレーニングが順調に進んだりと、特別感をたくさんたくさん味わわせてあげることができました。結果どんな時でも子どもを一番に考えた関わり方、その子の発達状況に応じた援助を行うことが子どもの幸せに繋がると改めて実感できました。

「保育園で三密ってどうやって避けていくの？」と疑問を感じたり、不安に思ったりした時もありましたが、保育園は働く保護者が安心して子どもを預けていく場であり、保育園に来る子どもたちも楽しいと思って過ごせる場であることを常に思って仕事をしていこうと思います。こうした状況でも園全体で協力して助け合い、大切な子どもたちを守る仕事に携われたことを私の貴重な経験として蓄積し、今後の保育の糧にしたいと思います。

これからも、子どもたちの明るい未来のために私たち保育者にできることを精一杯行い、子どもの育ちを支えていきたいと思います。

れんげ砂川保育園

コロナ禍における保育園の役割 ・ 橋本　香

連日の報道が新型コロナウイルス感染症一色となり、「今日の感染者は何人だ」「今日は減少した」と、不安で暗いニュースが続いていました。子どもたちとの会話の中でも「コロナだからできない」など、悲しいことに日常会話のようにとても身近なことになってしまいました。

子どもたちにとってもコロナの影響はあったと思います。公園の遊具にも感染のリスクがあったり、子ども同士で遊ぶことが密になってしまうことになったりなど…。また、子どもたちへの影響を考えると、この数年で社会全体の環境が変わってきたこともさらに拍車がかかったように思います。自動車での移動が増え、歩く機会が減り、自由に安全に遊べる公園や自然も減少しました。それに伴い、体力が低下したり転んでも手が出なかったりして、ケガの箇所も変わってきました。

コロナ禍の中で私自身、保育に当たりながら「毎日同じ遊びで、楽しくないのではないか」「体力が低下するのではないか」「命や感染防止は大事だが、それと同時に子どもの何かの成長を妨げているのではないか」と、悩みました。しかし、子どもたちは、毎日同じ園庭遊びでも同じ遊具でもくり返し遊び、笑い、友達と過ごしていました。自分たちを取り巻く環境に様々な変化があっても、大人より何十倍も素直で適応力があり、決して変わらないのが子どもの心だと思いました。

散歩ができなければ歩く練習や遊ぶ時間を増やし、転ぶことが多ければ体幹を鍛える遊びを考え、思いっきり走ることが少なければかけっこやリレーを多く取り入れる。自然に触れる機会がなければ今まで以上に実物を見せ、触れる機会を増やす。

どのような環境の変化があっても変化に対応し、子どもたちの笑顔と心が変わらないように、違う視点や違う方向からアプローチすることでいろいろな経験を提案し、生きる力が身につくように子どもたちを見守っていくのが、これからの保育園の役割であると、私は思います。

れんげ萩山保育園

笑顔の力 ・ 橘　祐子

コロナ禍で迎えた新年度はいつもとは大きく違うスタートとなりました。緊急事態宣言が発令され、登園する園児も少なく、賑わいも減り寂しささえも感じました。

自粛期間では感染を拡大させないためにできることは何か、自粛明けはどのような保育が望ましいか、外出が制限されている子どもやご家族の方が少しでも楽しめるようにと配信する親子ゲームや折り紙、ストレッチは何がよいか、また、子どもの成長発達についての研修等、幾度となく話し合いの場が設けられました。子どもたちについて話す機会が多くあったため、仕事の合間の雑談でも「みんなどうしているかな？」「元気かな？」と子どもたちの話題ばかりでした。

ある日、連日テレビで放送される新型コロナウイルス関連のニュースを見ながら「医療従事者の人たちって本当に大変だよね。すごいなあ…」と口にすると、隣で一緒にテレビを見ていた娘が「保育士さんも頑張ってるよね…」とつぶやきました。その一言に気が緩んだのか涙がこぼれました。子どもたちや子どもたちの居場所である保育園を守るために決して無理をしていた訳ではないと思っていましたが、どこかで気持ちに余裕がなくなっていたのだと気づいた瞬間でした。

自粛明け、不安もありましたが子どもたちの笑顔を見て、やはり保育者っていいなと自然に笑顔になりました。そんな時にれんげ萩山保育園のテーマである「笑顔の力」という言葉が頭をよぎり、この子どもたちの笑顔で何でも乗り越えられそうな力が湧いてきました。

変わりゆく生活の中で ・ 田中綾乃

新学期がスタートしてすぐに、緊急事態宣言が発令され今年はいつもとは違う生活へと変化しました。自粛期間の間は新型コロナウイルス対策や園内研修など今できることや、登園している子どもたちの安全を考えながら保育したり、これからどうすればよいのかなどを何度も話し合ったりして解除後に備えました。

コロナの状況がどうなってしまうのか手探りの中、私が一番不安に感じていたことは、“もし自分がこの施設の中で一番にコロナに罹ってしまったら… 子どもたちにうつしてしまったらどうしよう”ということでした。どんなに対策をしていても生活していくうえで人が出入りする場所にも足を運ばなければならず、完全には防ぐことはできないからです。

そんな思いもある中、緊急事態宣言が解除され、６月より自粛していた子どもたちの登園を開始しました。久しぶりの保育園で泣いてしまう子が多いだろうと覚悟していましたが、友達や保育者との再会にとてもうれしそうにしている子どもたちの姿を見て、子どもたちの安全や笑顔のために自分ができることを保育者として改めてやっていこうと思い直すきっかけになりました。

コロナ禍で今までの保育の中で変えたことのひとつは、行事「誕生会」についてでした。子どもたちにとっては年に一度の誕生会。喜んでくれるためにはどのように行えばよいのか、みんなで意見を出し合いました。合同にすると密になってしまうので各部屋で行ってみてはどうか、でもせっかくの誕生会なのだからみんなでお祝いしてあげたい、出し物も合同では見られないけれど楽しい会にしたいという思いで新しい形の誕生会の準備を進めていきました。

全クラスに放送を流し、園長先生に各クラスを回って誕生カードと絵本をプレゼントしていただき、場所は違っても誕生月の友達をみんなでお祝いしました。出し物は各月ごとに趣向を凝らして事前にビデオに撮ってクラスごとで上映したり、順番に回ったりしました。

コロナ禍で大変なこともありますが、この変化によって今まで当たり前だったことを見直したり、違う形を考えたりするよいきっかけにもなりました。まだまだ気は抜けませんが、子どもたちの大切な一日一日を守っていきたいと思います。

ほっこりエピソード

夏のある暑い日、外で汗だくになりながらぞうきんを洗っていると、ふと近づいてきて様子をじっと見ているAちゃん。
真剣な表情で「先生…お疲れ様…」とひとこと。
大人びたねぎらいの言葉に、ほっこり！
Aちゃんには心からの「ありがとう」を伝えました。

れんげ上北台保育園

コロナと子育て広場 ・ 須田冨美子

新型コロナウイルスが類を見ない速さで地球上に拡散し、日本でも緊急事態宣言が発令され、恐怖と不安が人々の間に深まりました。

子育て広場でも感染拡大防止のため、２月末から休まざるを得なくなりました。子育て広場を利用していた親子は外出自粛のために家に籠る生活となり、公園に行くこともはばかられる状態で、家庭中心の生活にストレスが募ったことと思われます。

緊急事態宣言が解除されると、６月末日より子育て広場も再開が決まりました。そこで、受け入れ態勢の準備として、室内の消毒はもちろん、三密（密閉、密集、密接）を頭に叩き込み、空気がよどまないよう窓を開ける、マスクの着用・親子の検温、そして一日５組の受け入れを実施しました。

再開した日の親子からはホッとした様子がうかがえ、私たちもうれしくなりました。一日も早くコロナが終息し、子どもたちが笑顔で遊べる日が来ることを願っています。

子どもたちの笑顔は元気の源 ・ 濱仲あゆみ

みんなで手をつないでお散歩！ 園行事に参加しみんなで笑い合う、保護者の方と子どもたちの成長を喜び合い、共有し合う…、そんな普通のことが制限されるコロナ禍での園生活。

保育の現場でも、当たり前にできていたことができないことがたくさんありますが、園長先生はいつも「ピンチはチャンス」と、私たちを導いてくれています。

今年の夏のプール遊びは密を避け、水遊びになりました。タライをたくさん用意し、子どもたちは少人数ずつで水面を叩いたり、水を掛け合ったり、氷を触ってみたり…と、十分に楽しめました。

行事も乳児クラスはほぼ中止になりましたが、すべてを“ごっこ遊び”にして楽しみました。「夏祭りごっこ」では、金魚すくいを好きなだけ、満足するまで楽しんだ子どもたちの笑顔をたくさん見ることができました。「運動会ごっこ」では、あいにくの天気でしたが子育て広場の教室を会場にして行いました。テラスから幼児クラスの友達に応援され、ドキドキする気持ちとうれしい気持ちを感じた子どもたちの成長した姿を見ることができました。降園時には、子どもたちが「運動会ごっこ」の写真を見ながら様子を伝えているその場で、保護者の方々が褒めている姿を見て温かい気持ちになりました。

マスク姿での保育が今後も続きそうですが、子どもたちと一日一日を大切にし、「今日も保育園楽しかった！」と言ってもらえるように、私も表情豊かに楽しんで保育に携わっていきたいと思います。

ほっこりエピソード

給食を食べた後、おなかをぽっこりさせた子に「おなかになにか入っているの？」と聞くと……
「夢と希望」と即答。思わず笑ってしまい、ほっこり！

れんげ南街保育園

コロナ禍の中で　・　野﨑　博

新型コロナウイルスが流行する中、肺炎になり入院しました。検査結果を待つ３日間、隔離された部屋で情報も入らず、誰とも会うことのできない不安を経験しました。結果は陰性でした。ほっと安心したのと同時に、この体験を子どもたちにさせてはいけないという思いから、消毒・手洗い・うがい・換気などの対策により力を入れることに繋がっていきました。

担任をしている年長児の子どもたちには、今求められている衛生のマナーを知らせていくことも大切だと考えています。自分を守るだけでなく、大好きな家族や友達を守ることを伝えながら生活しています。以前より手洗いを丁寧に行ったり、友達同士で声を掛け合ったりして、意識が深まったように感じています。子どもたちは今の環境を理解して、一生懸命過ごしています。日々の衛生管理ができていることで、例年より体調を崩すことが減ってきています。

自粛生活や行動が制限されている中で、生活の変化もありますが、保育園最後の１年を子どもたちにとって、自分にとっても思い出に残る年になるよう、工夫して活動しています。子どもたちは初めの頃はいつもと違うことに戸惑いを感じていることもありましたが、今では友達と楽しく遊び、笑い顔と笑い声があふれる毎日を過ごしています。

コロナ禍の渦中だからこそ学べることを受け止め、一日一日を有意義に取り組みながら過ごしていこうと思います。

こころが温かくなったこと　・　廣重真沙美

コロナが少し落ち着いて久しぶりに登園した２歳児の話です。その子は泣いている友達に「ねんねしたら　ママ　くるよ」と優しく声を掛け、励ましてくれたのです。私が昨年担任していた時にはまだ話すことは少なかったのですが、覚えたての自分の知っている言葉を使って友達を励ましてくれたことがとてもうれしかったです。お迎えの時に、保護者の方にこのエピソードをお伝えすると保護者の方の表情がほころび、「コロナで登園を控えている間にたくさん話すようになった」とうれしそうに教えてくださいました。

コロナ禍の自粛期間中、保護者の方は大変なことも多かったと思いますが、特に乳児の時期は、はじめてのあんよ、はじめてのおしゃべり、はじめてトイレでおしっこが出た、という成長の瞬間を自分の目で見届けるチャンスがあり、貴重な親子の、家族の時間だったと思います。

コロナ禍により、行事だけでなく日常の保育でも例年通りにいかず、子どもたちとしたかったことやその経験から伝えたかったことも難しくなり、もどかしく残念な気持ちです。日々、子どもたちが元気よく健やかに園に通っていたことが当たり前ではなかったことに気づかされました。

まだ終息とはいかず終わりが見えないことも不安ですが、その中でもできることを考え、ポジティブに子どもたちと乗り越えたいと思います。

ほっこりエピソード

運動会後、子どもたちのがんばりを褒めていたら
「せんせいも　たいそう　がんばってたよね」
「うんうん、がんばってた！」
と言ってくれた子どもたち！！

れんげ武蔵保育園

日常に感謝を　・　佐藤麻希

「新型コロナウイルス」「緊急事態宣言」

日常が急変し、見えないものと向き合いながら始まった４月…。誰もが不安と戸惑いを感じていたと思います。子どもたちは新しい環境になり、新しいクラスや担任に不安や期待を膨らませていました。“私には何ができるのだろう…”と日々考えていました。

そんなある日、我が子を保育園に迎えに行くと「今日も保育園楽しかった」「保育園で〇〇したんだ」「〇〇ちゃんと遊んだよ」と話す娘。いつもと変わらない娘の姿…。いつもと変わらない日常…。

それは、何か特別なことをするのではなく「いつもと変わらない日常」にしていくことだと気づかされました。

保育者の優しい笑顔や慣れ親しんだ玩具、遊具。おいしい給食や一緒に遊ぶ友達の存在。当たり前だと思っていた園生活が当たり前ではなくなった今。だからこそ、「いつもと変わらぬ日常」を子どもたちに感じてもらうことではないのか、と考えるようになりました。

たくさん外で遊び、様々な素材に触れ制作を楽しみ、いろいろな食材を使った給食を食べ、安心して眠る。そして笑顔で「先生さようなら」と手を振り、また明日が訪れる日々。

初めは不安を抱えていた子どもたちも次第に笑顔が見られるようになり、その笑顔を見た保護者が安心し、もっと笑顔になり、先の見えないゴールにも一筋の光が見えてきたように感じました。

私は、子どもたちが少しでも多くの笑顔で、安心した園生活が送れるよう「いつもと変わらぬ日常」を目指し、その日常に感謝し、これからも全力でがんばっていきたいと思います。

ほっこりエピソード

悲しそうなAくんに「どうしたの？ 悲しいの？」とBくん。
Aくんが泣いていることに気がつくと、一生懸命変顔をするBくん。
その思いが通じたようで思わず「ぷっ」と笑ってしまったAくん。
その後は顔を見合わせ「ケラケラ」と笑っていました。

日常の笑顔をみつめて　・　石川淳子

新型コロナウイルス感染症が広まる中、子どもを休ませたくても仕事でなかなか休めず不安や心配を感じながら預けざるを得ない保護者の方の思いを受け止め、食事や午睡等の環境を変えながら子どもの心の安定が図れるように保育をしていきました。

あまり濃厚なスキンシップは取れませんでしたが、人形やパペット等を使って日常の挨拶をしたり、食事をする時は「もぐもぐおいしいね」とパペットで口の動かし方や食べる楽しさを伝えたり、にらめっこ遊びや簡単な触れ合い遊びでは友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じてもらえるようにしていきました。

月日がたった今、子どもが自分でパペットを手にして友達と「どうぞ」と言いながら食べ物をパペットの口に入れてあげたり、にらめっこの歌を歌うと変顔をして顔を見合わせて笑ったりして遊ぶ姿が見られ成長を感じています。登園する人数が少ない時に一人ひとりの様子や興味があることを知ることができ、ゆっくり対応することで子どもたちは安定していました。自粛解除後に子どもたちが戻ってきた時にも、同じように一人ひとりとゆっくりと関わっていくことができたのはよかったと思っています。

また、自粛要請中に職員が手作り玩具を作って子どもたちを待っていました。そして現在、その手作りの玩具を使って子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿を見て、元気で生活ができることをうれしく思っています。

コロナ禍で「今までと同じことができなくなるのでは」と思うことはありますが、子どもへの働きかけや関わり方を考えて子どもの笑顔を守っていきたいと思っています。

れんげ桜が丘保育園

新しい生活 ・ 田代　茜

今年度、ずっと前からの憧れだった年長クラスの担任をさせて頂けることになりました。どんなふうにクラスを運営していこうか、行事ではどんなふうに子どもたちを輝かせてあげようかと、期待に胸を膨らませていました。

ところが、新年度が始まる頃には新型コロナウイルス感染症の騒ぎが大きくなり、自粛生活を余儀なくされるようになりました。子どもたちからも不安の色がにじみ出てくるようになり、保育園としてもあらゆる対策を講じるようになりました。

そんな中で、初めて年長クラスを持つ私はどのようにしてクラスを維持していけばよいのかと迷い、考えました。しかし私は、「世の中がどんなに騒いでも、子どもたちの成長が留まることはないのだ。明るく楽しくこの時期を乗り越えよう」と決めたのです。

そこで、紙テープで吊るした水風船を水鉄砲でねらい、撃ち落とすゲームや、作って遊べる玩具を手作りするなどして、様々な内容で保育を工夫しました。行事が縮小して寂しい思いもしましたが、運動会では万全な対策の中で、カラーガードや組体操、かけっこ、リレーを見事に成功させることができ、本当にうれしかったです。

世界的問題の新型コロナウイルスが流行ったことで、散歩に行けること、ご飯を一緒に食べること、なにより子どもたちと日々一緒に過ごせることなど、当たり前だと思っていたことのありがたさをしみじみと感じることができました。

ほっこりエピソード

給食にやきそばが出た日。
保育者がむせてしまったのを
見ていた2歳児の男の子が
ひとこと…。
「先生、つまっちゃったの？
ちゃんと噛みなさい」
その後もじっと見ていて
「ゆっくりね」とまるで
お母さんのようでした！

れんげ第二桜が丘保育園

わくわくする活動の工夫 ・ 小川みずき

新型コロナウイルスの感染予防で、公園への散歩がなくなり、自然と触れ合う機会が少なくなったので、活動の中で季節を感じる工夫をしました。

春は、子どもたちと一緒にオクラの種をまき、パプリカの苗を植えました。発芽やパプリカの色の変化など、すくすく成長していく姿を観察しました。オクラの産毛に気づいたり、まだ小さいパプリカをなでたりする子どもがいました。

夏は、園庭に行く途中でセミ探しをしました。私がセミを手に取って子どもたちに見せると、「うわぁ」と言ってのぞき込みました。また、色水遊びや水鉄砲では、水のいろいろな表情を楽しみました。洗濯ごっこでは、♪あらってあらって♪と歌いながら布を洗ったり絞ったり。子どもたちからは「まだ洗うー」と楽しそうな声が上がりました。

秋、10月に入ると、子どもたちは、遊歩道の脇に溜まった落ち葉を踏んでカサカサという音や踏んだときの感触を感じたりしていました。また、折り紙のコオロギを眺めながら、両手を羽に見立てて『虫のこえ』を歌い、楽しそうでした。

今後も健康管理に留意して、子どもたちのわくわくした表情が見られるように活動を工夫していきます。

私の思い出の一冊

みなさんの好きな本、思い出の本はどのような本でしょうか。
デジタル化、IT化が進み、人との繋がりが希薄になってきています。
そのうえ、終わりがみえない新型コロナウイルスにより
精神的に不安定になっている今、安心感、安定感を
与えてくれる絵本の読み聞かせの時間を大切にし、
子どもたちの心に残る一冊を見つけるお手伝いができたらと思っています。

人にやさしくすること
助け合うことの大切さを伝えたい

そらまめくんのベッド

なかやみわ 作・絵（福音館書店）

私には二人の子どもがいます。時間に余裕のある日には寝る前に本を読んでいるのですが、どの本を読むかもめる日が多く、一人一冊というルールにしました。

しかし、この『そらまめくんのベッド』だけは二人とも大好きで「これにする」と二人の意見が一致します。この絵本は宝物のふわふわベッドを初めは独り占めするそらまめくんが、あることをきっかけにみんなで分かち合うことの喜びを知っていくという物語です。

人にやさしくすることの大切さや、友達と助け合うことの大切さが伝わるといいなと思いながら読み聞かせをしています。

れんげ保育園　大野詩央織

どんなにきみがすきだか あててごらん

サム・マクブラットニィ 作 ／アニタ・ジェラーム 絵
小川仁央 訳（評論社）

ウサギの関係は親子なのか、友達なのか…、どんな関係なのかは一切描かれていません。しかし、読んでいくと、お互いにとってかけがえのない存在であるということが、ウサギの表情と言葉から伝わってきます。

自分にとって大切なものは何なのか、誰なのか。一番愛おしいと思う存在と出逢った時、伝えたい思いが胸に溢れた時に、自分自身のために読んでほしい一冊です。

れんげ砂川保育園　橋本　香

自分にとって大切なものは…
自分自身のために読んでほしい一冊

ブックモンスターかじり屋ニブルス

エマ・ヤーレット 作・絵 ／かまち ゆか 訳
（ワールドライブラリー）

ブックモンスターのかじり屋ニブルスがあらわれた！ニブルスは自分のおはなしの本をかじって本から抜け出し、他の本のおはなしにいたずらして、さわぎを巻き起こします！

子どもたちは、かじり屋ニブルスのかじってしまうところが大好きで、いつも楽しそうに見ています。

れんげ萩山保育園　濱田真理

子どもたちはニブルスが
本をかじってしまうところが大好き！

強く、そして優しく…
そんな風に生きたい

とべないほたる

小沢昭巳 作 ／ 関 重信 絵（ハート出版）

私がこの絵本に出会ったのは、保育士になり何気なく手にとった絵本の一冊でした。私が育ったのは、庭に出るとほたるが見られる自然豊かな町です。この絵本は、そんなほたるが主人公の絵本です。小さな川のほとりで一緒に生まれたほたるの中に羽が縮れて飛べないほたるが一匹いました。様々な苦難を乗り越え、かけがえのない友達と出会って生きていく。そんな姿を子どもたちと重ね合わせ、涙が止まりませんでした。強く、そして優しく。そんな風に生きたいと思う大切な一冊です。

れんげ上北台保育園　加藤千賀子

カラーモンスター きもちは なにいろ？

アナ・レナス 作 ／ おおともたけし 訳（永岡書店）

もも組では１年を通してこの絵本を読んできました。絵本には、それぞれの気持ちを持ったモンスターが登場します。気持ちという目に見えないものは、３歳児の子どもたちには少し難しいこともありました。しかし、カラーモンスターたちが様々な場面で子どもたちの手助けをしてくれました。自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気づいたり、困った時に助けとなってくれたこの絵本。これからも様々な気持ちと巡り合いながら、絵本と一緒に成長してほしいと思います。

れんげ南街保育園　安達沙綾香

いろいろな気持ちを知ることで
子どもたちの助けに

娘がママになった時に
贈りたい絵本

ママ

むろぞのくみ・まなべなほ 作（主婦の友社）

この絵本を手にした時、自分が手探りで子育てしていた頃を思い出しました。泣き止まないことにいら立ったり、寝顔を見て愛おしく、涙がこぼれたり…。ページをめくるたび、共感し、読み終えたときに胸が熱くなりました。子育て真っ只中のママの不安を優しく包み込んでくれます。娘がママになった時に贈りたい絵本です。

れんげ武蔵保育園　漆田悦子

とん ことり

筒井頼子 作 ／ 林 明子 絵（福音館書店）

20 数年前、初めての子育てで不安だった私の心の支えになったのは、同じ時期に出産したアパートのお隣さんでした。お互い娘を連れて家を行き来し、いつも一緒でした。そのお隣さんがある日引っ越してしまうことになり、寂しい気持ちでいっぱいだった時にこの絵本に出会いました。娘には「ポストにお手紙を入れてくれる新しいお友達がきっとできるよ」と話し、２人が前向きになれた一冊です。

れんげ桜が丘保育園　金井麻由美

大切な友達が引っ越した
寂しさを癒してくれた一冊

苦手な野菜が食べられるように！
子どもたちが幼い頃の思い出

グリーンマントのピーマンマン

さくらともこ 作 ／ 中村景児 絵（岩崎書店）

息子が初めて先生に読んでもらった本です。家でも「読んで」と持ってきました。「ママが先に読んで」と一行読むと、息子が続けて身振り手振りで言います。戦う場面では、大型タオルを首に巻いて戦います。妹は、ニコニコして見ていました。毎晩これをしてから寝ていました。苦手な野菜を「体にいい？」と聞いてきて、食べられるようになりました。子どもたちが幼い時の思い出の一冊です。

れんげ第二桜が丘保育園　高野友恵

よりよい育ちを考えるヒントに

子どものための精神医学

滝川一廣 著（医学書院）

子どもたちのよりよい育ちを考える時に、ヒントになる方法論はたくさんあるけれど、しばしば小手先のテクニックに偏ってしまって、「理解する」という基本的な作業を忘れがちです。そんな時に立ち返るのがこの本です。子どもの精神発達の道筋について、その基本原理から丁寧に教えてくれる教科書で、子どものよりよい育ちを考える人に広く役立つ一冊です。

れんげ学園　岩崎光太郎

令和元年度会計報告

当法人においては、社会福祉法等に則り、令和元年度における法人内全施設の会計報告を以下の通り公表いたします。これらは当法人の監事による監査を受けて、理事会及び評議員会において承認を受け、さらに公認会計士による外部監査を経て作成したものです。

貸借対照表

令和２年３月 31 日現在（円）

【資産の部】		【負債の部】	
流動資産	351,126,675	流動負債	117,745,429
現金預金	49,473,933	固定負債	17,920,000
未収金	294,038,252		
前払金	7,614,490	負債の部合計	135,665,429
固定資産	3,747,556,513	【純資産の部】	
建物	1,338,212,154	基本金	265,132,825
土地	132,340,644	国庫補助金等特別積立金	839,223,495
その他固定資産	2,277,003,715	その他の積立金	1,938,528,965
		次期繰越活動増減差額	920,132,474
		純資産の部合計	3,963,017,759
資産の部合計	4,098,683,188	負債及び純資産の部合計	4,098,683,188

資金収支計算書

（経常活動による収支）		（財務活動による収支）	
経常収入計	2,111,527,255	財務収入計	572,139,040
経常支出計	1,966,116,414	財務支出計	452,519,040
経常活動資金収支差額	145,410,841	財務活動資金収支差額	119,620,000
（施設整備等による収支）		（当期資金収支差額合計）	△106,345,413
施設整備等収入計	248,179,000	（前期末支払資金残高）	409,028,598
施設整備等支出計	619,555,254	（当期末支払資金残高）	302,683,185
施設整備等資金収支差額	△371,376,254		

後援会のおさそい

児童養護施設れんげ学園は児童福祉法による、虐待や保護者の疾病等の理由で、家族とともに生活することが困難な子どもたちが暮らす施設です。

後援会の皆様には行事等を通して子どもたちの成長を見守っていただいております。

年額 3,650 円を一口として、会費を納入いただき、上記会計報告のように物品寄贈を行ったり、将来の改築の際の備品購入に備えたりしておりますので、是非ご加入いただきたくお願いいたします。

お申し込みはれんげ学園にて承ります。

TEL 042-565-8451　れんげ学園

後援会会員及び寄付者御芳名

（令和２年１月～令和２年１２月　＊順不同・敬称略）

1　伊藤　知一
2　岩田　敏
3　岩品　勝次
4　岩元　綾己
5　内野　仁
6　梅谷　令子
7　岡原　宏一
8　小野寺　敬
9　小沢　美智子
10　風間　英昭
11　神山　勤
12　川鍋　正晴
13　木村　三郎
14　清野　きち子
15　清野　伸子
16　小泉　美佐子
17　小桜　大作
18　小嶋　兵庫
19　後藤　多美子
20　斉藤　太子
21　佐々木　栄亨
22　佐藤　好江
23　澤谷　寛子
24　柴田　照代
25　嶋田　孝司
26　神保
27　末永　幸歩
28　菅沼　京子
29　鈴木　英晃
30　高橋　真明
31　竹下　悦子
32　武部　吉久
33　田中　清春
34　田中　三喜男
35　崔　惠慶
36　永井　祐司
37　野口　芳子
38　原田　真由子
39　馬場　れい子
40　半澤　一明
41　日野　香澄
42　平木　友子
43　比留間　タケ
44　廣瀬　実子
45　福島　正子
46　村上　次利
47　森本　仁
48　山添　一郎・紀子
49　吉江　英利
50　吉澤　久美子
51　(株)あさひや
52　アイペット損害保険（株）
53　(株)朝日新聞社
54　ありさんプロ(株)
55　IKEA立川店
56　イトーヨーカドー労働組合東大和支部
57　イトーヨーカドー労働組合田無支部
58　インターコスメ(株)
59　(株)ウインズ
60　ウインズひまわり会
61　河原商店
62　協同食品サービス
63　清野運送（有）
64　(有)キヨノオートサービス
65　国際ソロプチミスト東大和
66　小樽青果店
67　コストコ入間倉庫店
68　後藤商店大和支店
69　佐川急便(株)
70　(株)サンゲツ
71　JA東京みどり東大和支店
72　(株)ジェイストーム
73　(株)ジャパンゲートウェイ
74　(株)シャリオットホールディングス
75　セカンドハーベストジャパン
76　関田牛乳店
77　世界の野球グローブ支援プロジェクト
78　(株)セレモア
79　全国シャンメリー協同組合
80　(株)双蹊
81　(株)たかくら新産業
82　(有)ダスカジャパンクァウテモック
83　多摩管友会
84　(株)チュチュアンナ
85　有限会社THS
86　TCワークス㈱ほっとアルファー
87　テンデイズゲームズ
88　東京馬主協会
89　東興工業株式会社
90　(株)トータルデザインセンター
91　日通エネルギー関東（株）
92　日本鏡餅組合
93　日本児童図書出版協会
94　日本出版販売(株)
95　(一財)日本児童養護施設財団
96　(株)ニューあむーる
97　走る電気屋さんハッピー
98　光建設(株)
99　富士天然氷蔵元「不二」
100　NPO法人ぶるーべりー愛犬ふぁみりー協会
101　(株)フレーベル館
102　(株)プレナス
103　(株)プロセミ
104　東大和市社会福祉協議会
105　ヘアーハウスK's
106　毎日新聞東京社会事業団
107　(福)幹福祉会東大和事業所
108　(株)メリーチョコレートカンパニー
109　屋久島東部茶生産組合
110　山崎米店
111　大和屋商事
112　横田西小学校
113　(株)龍角散
114　ハーレークリスマスチャリティーライド
ご参加の皆様
115　Amazon欲しいものリストから
ご寄付下さった皆様

★毎年ご協力いただいている第三者評価のアンケート及び受審の結果はインターネットでご覧になれます（www.fukunavi.or.jp）。
なお、園の詳細については各園のホームページをご覧ください。

編集後記

今年度は、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、混乱の中での一年でした。その中での職員の仕事を通しての思いを、今回は紹介いたしました。今後も先の見えない不安もありますが、子どもたちの心に寄り添ってまいります。

広報委員

村上　恵
幸田　枝利
川里　佳世
高橋　ひとみ
上田　美和
鈴木　由紀
植原　京子
岩崎　光太郎